

| グループ討議 | 事前課題 | 特別な持ち物 |
|--------|------|--------|
| × | × | × |

経理・総務部門のための RPA の活かし方講座

「電子取引」の電子保存も自動化して経理人材不足を解決しよう

講座時間

13:00～16:30 (半日間)

講師名

ナレッジネットワーク 代表取締役社長・公認会計士 中田 清穂 氏

対象

経理・総務部門の担当者、経営者やシステム部門で経理・総務業務の効率化のために RPA 導入を考えている方

ねらい

- ・経理人材の不足と高齢化の課題を抱えたまま、中小企業でも電子帳簿保存法の「電子取引」への対応やインボイス制度への対応が必要な状況になりました。
- ・経理人材の不足を補うカギは「単純業務の自動化」です。大規模投資が必要なく、人間の作業を自動化する RPA・その他 IT ツールについて解説し、さらに請求書や領収書を捨てられる税制についても解説します。最後に「人間でなければできない業務」とは何かを考えるヒントを紹介します。

講座カリキュラム

請求書や領収書などを廃棄できる税制や RPA を活用して「人間でなければできない業務」を目指しましょう！

1. 経理部門における RPA のあり方と課題

- (1) 日本での RPA の導入状況
- (2) RPA 対応の効果 (例)
～世界初「ロボット事務センター」の地方開設
- (3) RPA はどのような作業に適用するべきか
～日本企業の多くが間違えているアプローチ～
- (4) こんなにある RPA のメリット
- (5) どのような作業をロボにさせられるか
～【実演】銀行の為替レート情報を Excel に貼るロボ作成と実行
- (6) 連続する作業をロボにさせてみよう
～【実演】会計システムにログイン→貸借対照表をエクスポート→Excel に読み込む
→メールに添付し経理部員 (人間) にメール配信～
- (7) 実際に RPA が導入されている経理業務の例
- (8) 連続しない作業は RPA 対象にうつつけ
- (9) 経理業務の「標準化」から始めるアプローチの問題点
- (10) 日本企業で導入されている主な RPA 製品の比較説明
- (11) 日本企業で RPA が導入されてわかってきた 17 の留意点
- (12) RPA の管理者が想定すべき 5 つのリスクとは？

(13) ロボ化の対象となる経理業務の洗い出し方

(14) 経理業務は AI に取って代わられるのか？

～今の AI の限界と

「AI に負けない経理マン」になるためのポイント

2. 電子帳簿保存法の「電子取引」や電子インボイスへの RPA の活用

- (1) 「電子取引」で入手したエビデンスの「紙」保存は認められない
- (2) 2024 年 1 月 1 日から施行されている猶予措置と緩和措置
- (3) 「電子取引」でダウンロードの求めに応じない場合の対応方法
- (4) 「電子取引」エビデンスの電子保存を自動化する RPA

3. 『集計屋』からの脱却と「経営力」を向上させる 『攻めの経理』への進化

- (1) 企業経営からみえてくる制度会計の問題点
- (2) 「予測」はヤマ勘ではない。
「合理的」に「見える」ように策定するもの
- (3) 「いい加減な予算」から「経営資源を適切に配分するための予測」へ
- (4) 「稼ぐ力」をアップさせるために要求される経理マンのスキルとは
- (5) 税務行政の DX 化の影響を受けるエビデンスの電子化